

## 1 平成29年度の取組と自己評価

## (1) 教育活動への取組と自己評価

## ① 基本的な生活習慣の確立

拡大学年會を活性化させ、全教員による組織的な生活指導の徹底と情報の共有化を図った。随時の家庭連絡や家庭と連携した無断欠席や遅刻に対する指導体制の構築により、無断欠席・無断遅刻が減少した。また、挨拶励行や授業中のスマホ無断使用への指導等、授業規律確立に意識が図られた。

生徒出席率は1学年91.6%、2学年96.2%、3学年80.7%、4学年86.5%であった。また、全体で皆勤者1名、精勤者1名（前年度合計8名）であった。

進級・卒業率は、1学年83.3%、2学年91.7%、3学年80.0%、4学年100.0%、全体で90.9%であり、1学年は約39ポイント減少した。転退学率は9.1%（前年度16.4%）であった。

なお、特別指導件数は、全1件、対象者2名（前年度 全1件、対象者1名）であった。

## ② 教育課程のさらなる充実

商業科目においては、生徒のニーズにあった選択による少人数授業を行い、「簿記」（2年）、「財務会計」（3年）において習熟度別授業を実施するなど、きめ細かい指導を推進した。今後、次期学習指導要領実施へ向け、授業改善等に取り組んでいく。

## ③ 基礎・基本の充実

習熟度別授業については、「簿記」（2年）、「財務会計」（3年）において実施。授業外で補習を実施し資格取得において効果を上げており、今後も一層の改善に努める。

基礎、基本の定着については、各教科において個別の学力の実態を把握し、ドリル学習など段階的な学習指導を通じて基礎学力の定着を推進している。今後は、生徒の基礎学力の定着度を把握し、具体的な目標を定め一層の個別指導の充実を図る。

基本レベルの資格取得等への対応については、卒業時までには簿記、ビジネス文書、情報処理等の3級以上を全員が取得することを目標に指導を行っている。

## ④ 専門性と実践力の深化

高度資格取得のための指導の充実については、選択授業はもとより放課後等での補習等の指導を行い、日商簿記3級2名、全経簿記2級9名、ワープロ準2級4名、プレゼンテーション1級6名・2級2名、ホームページ作成1級1名・2級6名、文書デザイン1級6名・2級1名が合格した。

課題研究の内容の充実については、4年で簿記1講座、情報1講座の計2講座により実施し、上記各種検定試験等の資格取得を推進した。

## ⑤ 防災教育の充実

避難訓練を工夫し全校生徒で一時避難場所及び広域避難場所への移動訓練を実施した。消防署と連携して、災害時の救急対応など総合的な防災訓練を実施した。

## ⑥ 特別活動の充実と学校に対する帰属意識の向上

生徒の委員会組織を活用した特色ある学校行事の実施の検討については、新入生歓迎会、百人一首大会、師走祭、スポーツ大会、予餞会において生徒会組織が主体となって運営実施した。また、生徒会を中心に、花壇（プランター）の設置を行った。

4年間を見通した年間ホームルーム指導計画の策定と改善については、時間割上の設定時間（LHR）において、学校行事の準備や修学旅行の行き先の検討など、学級としての活動時間に費やすように改善が進んだ。また、拡大学年會を活性化させ、各分掌と学年担任が連携し年間指導計画によるHR活動の充実を図る。

## ⑦ 目標管理型の進路指導システムの構築

進路指導部と学年の連携による目標管理型の進路指導の充実とキャリアガイダンスの組織的かつ計画的な実施については、年2回の進路講話と学年に応じたキャリアガイダンスを行った。卒業生の進路については、進学4名（23.5%）、就職 8名（47.1%）、未定 5名（29.4%）であった。未定者5名の内、2名は現在も就職活動中、2名は浪人を含め大学進学を目指している。1名は進学か就職かを決めかねている。

資格取得等の計画的かつ組織的な進路指導の充実については、放課後の補習、長期休業日の補講、部活動指導等を行い、その結果、全国経理教育協会簿記能力検定3級以上16名、日本商工会議所簿記検定3級2名、日本情報処理検定協会ワープロ検定3級以上

7名、プレゼンテーション8名、ホームページ作成8名、文書デザイン7名が合格した。

#### ⑧ 意図的・計画的な広報・募集活動の実施

授業公開、学校説明会、中学校訪問、ホームページ等募集活動の見直しと改善については、授業公開週間（4回実施）、中学校へ体験入学等の案内送付、教員全員による中学校訪問、出前授業（1回）、体験入学（2回）を実施した。結果としては、学力選抜の応募状況は、一次募集応募者6名（0.23倍）、二次募集応募者4名（0.17倍）であった。

中学校の進路指導計画やPTAとリンクした広報活動の見直しと改善については、中学校の動きへの対応やPTAとのリンク等今後の課題である。

#### ⑨ 保健・食育指導

健康で安全な学校環境の確立と自立的な生活管理と健康管理については、養護教諭を中心に全教員によって実施されており、加えてスクールカウンセラー活用による相談活動と校内研修の実施により、定時制全体の教育力を向上させている。

給食における食生活のマナーや食事を通じた人間関係の能力形成については、食育講話を2回実施した他、食堂でのマナー等良好であり、個食となる生徒へは教員が話しかけるなど、学校全体で食育への意識を持って取り組んでいる。

#### ⑩ 図書・視聴覚指導

教養と知識、技術の定着と生涯学習への基礎づくりについては、図書館の活用をさらに推進し、読書習慣の定着が図られるよう継続して指導する。

### (2) 重点目標への取組と自己評価

#### ①教育課程の改善と学校運営

選択科目や学校設定科目の点検と改善を行い、学校の特色や生徒のニーズが明確に反映できる内容への深化を図った。「人間と社会」は外部講師を招き、手話と高齢者福祉を中心に、体験的な学習を行うことができた。

学校運営連絡協議会との連携を図り、学校運営上の課題解決の見通しや具体策を構築するについては、授業規律を課題と捉え、協議委員が二度に渡り授業見学を行い、私語や飲食、携帯電話の使用等について改善が図られた。

体罰及び暴言の禁止について教職員に周知するとともに、必要に応じて研修等を実施して徹底を図るについては、生徒指導のあり方や日頃からの服務事故防止への意識付けを行い徹底を図った。また、教職員全体のモラルの維持と個人情報をも適正に管理するため、サービスの厳正と校内研修の充実を図り、サービスの厳正に関する情報を職員室に掲示するなどして適正な校務遂行に努めた。

新教育課程について調査研究に努め実施に向けて取り組むについては、学習指導要領改訂や高大接続改革等に関する校内研修を行い、新しい教育制度に関する教員の意識づくりに努めた。今後は、学校経営計画に基づいた教育課程のグランドデザインを具体的に策定し、国語、数学、英語の基礎基本を重視し、商業科目をバランスよく配置した新教育課程を作成していく。

#### ②学習指導

「アクティブ・ラーニング」の視点にたった学習の充実を図るについては、一部生徒同士による教え合う活動が行われたが、意見を言ったり話し合ったり等の主体的な学習を展開する指導には至っていない。

「個別の教育支援計画」を策定し一層の個別指導を充実させるについては、生徒の基礎学力の定着度を把握しながらドリル学習などを通じた指導に取り組むとともに、障害のある生徒や外国籍の生徒など、一般的な学力評価での対応が難しい生徒に対する、個人内評価等、生徒に応じて個々に対応することができた。

授業規律の確立に努め規範意識を高めるについては、丁寧な指導に努めてきたことで、遅れて教室に入ってきたり、授業を抜け出したりする生徒はいない状況となり、号令とチャイムスタート、飲食等禁止が普通に行われるようになった。

より高度な資格習得に挑戦させるについては、IT系の検定で1級に挑戦する生徒が増え、補習参加や自主的練習など、積極的に学習に取り組む生徒が多くなった。

○数値目標：(目標)※不合格者の再受験は少なく、他の検定に挑戦している。

簿記検定3級以上…2年次 55%(70)、3年次 87%(90)、4年次 65%(100)

ワープロ検定 Ⅱ …1年次 80%(70)、2年次 82%(80)、3年次 73%(90)、4年次 59%(100)

### ③生活指導

基本的な生活習慣を確立させる指導に努めると家庭との連携を活性化させ進級卒業率を高めていくについては、家庭との連携及び個別指導の徹底により無断の遅刻・欠席を減少させ、全体的な進級・卒業率は改善した。また、挨拶やマナーについても、授業における号令の励行等、徐々に改善されている。

家庭やスクールカウンセラーとの連携については、担任を中心に家庭への適時連絡を行うことなど主任主幹教諭から若手の教員へのOJTが行われている。スクールカウンセラーが授業参観を行うなど、生徒に対して多面的に観察する指導を行っている。

教育活動の予定や状況をさまざまな伝達手段等で案内し保護者と連携して指導の充実に図るについては、HPの活用（更新25回）や定時制通信（月毎）の発行に取り組んだ。

グループエンカウンターを活用により、中途退学者の減少、目標5%以下については、粘り強く丁寧な指導に取り組んだが、1学年の退学者は実質1名(10%)であった。

### ④進路指導

キャリア教育全体計画を確立し実施するについては、生徒の対人関係能力や社会的適応力を高めていくために、教科指導や学校行事をとおして1年次から卒業までの4年間の計画に基づいて、組織的・計画的な指導を実施していく。

就職希望者100%の内定を目指すについては、ハローワークと連携しジョブサポーターと随時連絡を取りながら、進路指導部を中心としながら全職員で4年生の卒業後の進路が決定できるよう指導に取り組んだ。5名が未定（内、就職希望2名）だが、今後も進路指導は継続して行い、卒業した後も100%内定を目指して指導を続ける。

### ⑤特別活動

特別活動の充実については、生徒会、委員会、部活動、放課後の活動場所の提供などにより、生徒一人ひとりの存在感と達成感や、学校への帰属意識、クラスの連帯感を高めることにより、学校に生徒の居場所を作る。

生徒会や委員会活動の充実については、ホームルームや学校行事を通して、学校生活の満足度を高めるとともに、社会性を育み、自主性・自律性を高めた。

部活動の加入については、今後も活動日数や時間（週休日も含め）等の環境保証と整備を通して、部活動加入率70%以上（今年度69.2%）を目指す。

### ⑥保健・食育指導

健康や安全に関する指導を徹底するため、薬物乱用防止教室やセーフティ教室において、深川警察署より講師を迎えて講演会を実施した。また、「自転車の安全な乗り方・ルールについて」スタントマンによる自転車安全教室を実施した。今後も内容を精選、改善することにより充実に図る。

スクールカウンセラーとの連携については、保護者にSCとの相談について呼びかけるとともに、教員が気付いた生徒の変化について情報交換し合い、継続して連携し、観察し続けるなど、丁寧に対応することで課題解決に向けて学校全体で取り組んだ。

環境への配慮と校内美化については、同じ教室を使い合う全日制課程2学年と連携して清掃指導やゴミ分別の指導の徹底を心掛けた。

食に関する指導を通して食育の指導を行うについては、食堂でのマナーやルールの指導を行うとともに、食育講話を2回実施し、栄養バランスを含め食事の意義や伝統としての日本食の素晴らしさ等について指導を行った。

### ⑦図書・視聴覚教育

図書委員会や広報活動を充実させ、図書館の資料の充実と利用の促進を図るとともに、図書館管理委託業者と連携し、図書館で授業を行うなど利用促進に取り組んだ。また、生涯学習への基礎づくりとして、教科と連携して読書習慣を定着の取り組みを推進した。

### ⑧研究・研修

教職員研修センターや東部学校経営支援センターが実施した研修を活用し、長期休業期間を中心に計画的に研修に取り組みせ、指導力の向上を図った。また、若手教員育成研修（1年次・2年次）等の授業研究・研究協議により授業力向上を図った。学校運営連絡協議会協議委員による授業見学や、生徒による授業評価の結果を活用して、授業への

意識を高めさせ、今後も、授業改善に取り組ませていく。

#### ⑨ 広報・募集活動

学校案内(冊子)を区教委の交換便を活用し配布するとともに、教員全員が中学校訪問を行った。学校のホームページを随時更新して、本校の教育活動及び商業教育をPRした。授業公開や体験入学の予定を、FAXを使い(登録一斉送信活用)中学校へ案内した。

#### ○ 数値目標の達成度

|          |           |   |                         |
|----------|-----------|---|-------------------------|
| 中学校等訪問   | 10校以上     | → | <u>達成(32校)</u>          |
| 授業公開     | 10日以上     | → | <u>達成(公開週間4回実施17日)</u>  |
| 体験入学     | 2回(30名)以上 | → | <u>未達成(2回…4名参加)</u>     |
| 随時学校見学   | 3日以上      | → | <u>未達成(来校見学1回)</u>      |
| 学力検査応募倍率 | 1.0倍以上    | → | <u>未達成(0.2倍 6名/30名)</u> |
| 転退学率     | 10.0%以内   | → | <u>達成(7.1%)</u>         |
| 資格取得者数   | 50以上      | → | <u>達成(検定未取得4人)</u>      |
| 部活動加入率   | 70%以上     | → | <u>ほぼ達成(69.2%)</u>      |

## 2 次年度以降の課題と対応策

### (1) 授業規律の確立と教育課程の改善

#### ① 授業規律の確立

- ・ 号令、チャイムスタートの実施によりメリハリをつける。
- ・ 私語、飲食の禁止、携帯電話の使用厳禁等により規範意識を高める。

#### ② 教育課程の改善

- ・ 授業改善への取り組み推進により基礎基本の定着を図る。
- ・ 習熟度別授業、少人数授業の実施により生徒一人ひとりの学力向上を図る。

### (2) 基本的生活習慣の確立と特別活動の充実

#### ① 基本的生活習慣の確立

- ・ 無断欠席及び遅刻指導の実施により基本的生活習慣の改善を図る。
- ・ 禁煙指導を徹底し、生活習慣の改善を図り健全育成を推進する。

#### ② 特別活動の充実

- ・ 生徒会、委員会、部活動等を奨励し、充実した学校生活を推進する。
- ・ 校外活動について精査し、生徒の主体的な学校行事運営を支援する。

### (3) インターンシップ実施とキャリア全体計画の確立

#### ① インターンシップ実施

- ・ 組織的、計画的なインターンシップを実施する。
- ・ キャリアについて考えるための事前・事後の指導計画の改善を図る。

#### ② キャリア全体計画の確立

- ・ 1年次より卒業までの4年間を見据えた全体計画を実施する。
- ・ 教育課程の特色を活かし、基本的な資格取得から高度資格取得を推進する。

### (4) 広報活動の推進と地域連携の拡充

#### ① 広報活動の推進

- ・ 近隣中学校訪問、学校説明会、授業公開、入学体験を実施する。
- ・ 学校Webページの随時更新、学校掲示板の活用を推進する。
- ・ 定時制ニュースの発行を継続する。

#### ② 地域連携の拡充

- ・ セーフティ教室、薬物乱用防止教室等の公開を継続実施する。

#### ③ 目標

- ・ 入学者選抜一次募集において1.0倍以上を目指す。

### (5) その他

- ・ 授業改善や保護者との連携及びグループエンカウンターを活用により、中途退学者の減少、目標5%以下を達成する。